

和歌山県に於ける人工透析の現況

田上 浩

和歌山県に於て、人工透析治療が始まったのは昭和45年1月のことである。当時、米国留学から帰朝して、人工透析の研究を重ねていた和歌山医大泌尿器科金沢教授は、慢性腎不全患者に初めて人工透析治療を試み、ついに第一号の成功を成し遂げたのである。この患者は20年後の今日も極めて元気で、社会復帰している。

本県はご承知の通り、地勢的に80%は山林によって占められているが、その山並みを流れるいくつかの河川は紀伊水道や、太平洋へとつながっている。したがって人口はほとんど河口地帯に集まり、都市を形成する。交通体系は、海岸線に沿って南下する紀勢線と、国道42号線を主要としているが、他県と比べると余り便利とは言えない。県下の地域医療対策にもこの交通事情を配慮せねばならない。

昭和45年1月第1号成功以来、本県の人工透析の地域医療に於ても、和歌山医大泌尿器科腎センターを中心として、紀北、紀中、紀南の地域に施設が配置され、対策が成されてきた。

その後、昭和48年にできた和歌山透析研究会が発展し、現在の和歌山透析医会が誕生した。

会員はA、B会員合わせて28名にすぎないが、透析施設は公私立合わせて26施設で対象患者は約1000名である。

医会の研修会は、和医大腎センターが毎年2回主催する和歌山透析研究会に参加して研修している。